

平成26年度（第58回）

岩手県教育研究発表会発表資料

復興教育分科会

## ふるさとの 復興を担う 『人づくり』の展開

～「自分から」かわり、学びを深める児童の育成～

平成27年2月12日

宮古市立宮古小学校

## 1 主題設定の理由

### (1) 研究の経過から

平成23年3月11日午後2時46分「東日本大震災・大津波」発生。三陸沿岸は大津波により未曾有の大震災に見舞われた。一時は750名を超える人たちが本校で避難所生活をおくり、避難所が閉鎖されたのは7月25日だった。

平成23年度は、ほぼ1か月遅れの4月25日から始まったが、避難所生活と学校生活の共存の中で、健康であること、お互いを思いやること、助け合うこと、更には万一に備えておくことの大切さを痛感した。教育に携わる者も、教師として、人としてどうあればよいか、考えるきっかけとなった。特に、自分の命は自分で守るという「津波てんでんこ」の考えをどうやって徹底させるか、地震・津波で破壊されたふるさと宮古の再生に担う子供たちをどうやって育成するか考えた。

平成24年度は例年通り始まった。前述のような課題はあったものの、まずは「当たり前の日常を取り戻すこと」を第一に、4月からの教育活動を再開した。

その間、岩手県教育委員会も、「震災を乗り越え、ふるさとの未来を創造していくために、10年後、20年後の岩手の復興・発展を担い得る子どもたちを育成することが岩手の教育の使命」と謳い、東日本大震災で得た経験を無にせず、プラスとして生かしていくために、復興教育の推進を掲げた。

本校も、平成24年度に岩手県教育委員会の「復興教育推進校モデル校」に指定されたことを機に、ふるさと宮古の再生（復興）に担う子供たちを育成するためには、「当たり前の日常」（学級指導、教科指導等）にどのような要素を加え、どのように構想し、指導するか考えた。

復興教育は、「ふるさとの復興を志す『人づくり』」そのものであり、今まで、学校教育で目指してきた「人づくり」と軸を一にするものであることがわかった。ただし、子供たちも、教師も、地域の方々も、すべての人が震災を経験していることから、漫然とした「人づくり」の指導でなく、3.11で学んだことを生かした学級指導や教科指導をすることとした。

### (2) 「いわての復興教育」の実情と方向性から

「いわての復興教育」は、復興プログラムに示されている三つの教育的価値である「いきる」「かかわる」「そなえる」の具現化に向け、県内すべての学校で推進しているが、復興教育に関するアンケート調査結果によると、被災地との交流を軸にした活動、被災地内における郷土芸能の復活や被災体験を記録として残す活動等を総合的な学習の時間、道徳、学校行事を活用しているケースが多いようである。

そのような中、本校は、日常的な授業を軸に、教育活動全体を通して「ふるさとの復興を担う人づくり」を目指すこととした。そして「いきる」「かかわる」「そなえる」を具現化しようとした。

このことは、国立教育政策研究所 総括研究官の山森光陽先生も、復興教育の根幹は「授業」であり、体験だけで終わらせず、思考力の発揮と伸長を評価しながら授業

を進めることが復興を担う人材の育成につながるとしている。

については、本校では前述のとおり、教科指導において「自分から」「かかわる」授業を構想することによって、復興を担う人材を育成することとした。

なお、震災後の「人づくり」であることから、「ふるさとの復興を担う人づくり」としているが、本指導は、重点教科を中心に、「自分から」かかわることで、主体的に学ぼうとする子どもを育てようとするもの（不易）であり、さらには「人・もの・こと」とかかわることによって、コミュニケーション能力や、人間関係づくりという今日的課題（流行）解決に迫ろうとするものであり、従来、学校教育が目指してきた「人づくり」と軸を一にするものである。

### （3）児童の実態から

本校の子どもたちは、「街場の子ども」らしく、明るく素直であり、穏やかな子が多い。人間関係のトラブルも多くなく、日々、穏やかに過ごしている。

だが、日々の生活の中で、リーダーシップを発揮し、よりよい意見を求め、議論し合うことは、あまり見られない。

このことは、普段の授業等における思考力・判断力、行動力、いわゆる「生きる力」の育成が十分でないこと、特にも、自分の考えを形成し、それを話したり書いたりする表現力が不足していることに起因すると理解している。

また、運動習慣にも個人差があり基礎体力の二極化もみられる。このことは、万が一の避難行動、その後の健康維持、心身のバランス等に大きく影響することから、基礎体力の醸成が急務であると認識している。

については、「生きる力」及び基礎体力の醸成を、全校体制で多面的経年的に取り組んでいく必要がある。

以上の3項を踏まえ、研究主題を「ふるさとの復興を担う『人づくり』の展開～「自分から」かかわり、学びを深める児童の育成～」とした。

## 2 研究推進について

### （1）研究の目標

ふるさとの復興を担う『人づくり』の展開として、「自分から」かかわることをとおして、学びを深める指導の在り方を実践的に明らかにする。

### （2）研究の内容

ア 「自分から」かかわることを取り入れた教科等の指導について

- ・児童一人一人が学びを深めるための、伝え合う・かかわり合う・助け合う・つなぎ合う場の位置づけとその在り方

イ 全教育活動における復興教育を位置づけた指導について

- ・「宮古小復興教育学習プログラム」を取り入れた指導の在り方

### 3 研究構想図



#### 4 研究の基本的な考え方

##### (1) ふるさとの復興を担う『人づくり』とは

東日本大震災によって壊滅的な打撃を受けた被災地は、被災後間もなくして、ふるさとの復活のため、復旧・復興に取り組みはじめた。

岩手県教育委員会も、「いわての復興教育」の推進にあたって、その目的に「郷土を愛し、その復興・発展を支える人材の育成」と、「復興・発展を支える人づくり」を掲げた。

宮古市街地にある本校も含め、本校の学区の半分以上が被災しており、「ふるさと宮古」の復旧・復興は急務である。しかし、完全な復旧・復興には、10年、20年、或いはそれ以上のスパンを要するものであり、結果、それは現在、本校で学ぶ児童の力に負うところが大きい。

ついでに、「ふるさとの復興を担う『人』」とは、どのような人であるのか、その人づくりをするために、どのような手立てを講ずるか考え、丁寧に指導することとした。

「ふるさとの復興を担う『人』」は、まずは「ふるさとを愛する人」である。また、「ふるさとの復興」は、一人ではできず、多くの仲間と共同で推進するものであることから、人間関係づくりが上手で、心身ともに健康な「心やさしくたくましい人」とあると考えた。さらに、さまざまな状況にあっても、「自分で考え、判断し、行動ができる」よう、日々、学ぶ姿勢を忘れず精進する人、つまり「主体的に学ぶ人」とあると考えた。最後に、震災が再発こともあることから、「自分の命は自分で守る人」とあると考えた。

この結果、「ふるさとの復興を担う『人づくり』」は、いままでの学校教育が目指してきた『生きる力』の育成そのものであり、これまでの本校の取組と同じであることを確認した。

そこで、本校では、目指す復興教育の目標は次の4点とした。



- ふるさとを愛する子
- 心やさしくたくましく生きる子
- 主体的に学ぶ子
- 自分の命は自分で守る子

ただ今回は、知・徳・体のバランスのとれた『生きる力』の育成にとどまらず、いつ、いかなる場合でも、子ども一人一人が、自分で考え、判断し、行動できるように、様々な問題に『自分から』かかわり、学びを深める児童の育成を目指すこととした。

『ふるさとの復興を担う人』 = 『自分から』かかわり、考え、判断し、行動できる子

なお『人づくり』の人は、漢字にしている。それは、人と人が支えあって生きてほしいという願いからである。

## (2)「自分から」かかわるとは

本研究はいつ、いかなる場合でも、子ども一人一人が、自分で考え、判断し、行動できるように、様々な問題に『自分から』かかわり、考え、判断し、行動できる子ども、の育成を目指そうとするものである。

子どもたちには、学習は与えられてやるものでなく、子どもたち自身が自ら意欲的に行うものであるという学習観の転換を図ろうとした。

教師には、子どもたちが『自分から』かかわり、考え、判断し、行動できるような授業を実践しようという指導観の転換を図ろうとした。

そこで、教科指導において、子ども一人一人が『自分から』かかわる」場面を、国語科では「伝え合う」、社会科では「かかわり合う」、体育科では「助け合う」、特別活動では「つなぎ合う」として実践することとした。

高学年では、国語科において「伝え合う」場を設定することによって、自分の思いや考えをもち、伝え合うことのできる子ども。お互いのよさを認め合い、自分の考えを深めたり、高めたりできる子どもを育てたい。

中学年では、社会科において「かかわり合う」場を設定することによって、人、もの、こととのかかわりを大切にする子ども。ふるさとを愛し、ふるさとに育てられたという思いをもてる子どもを育てたい。

低学年では、体育科において「助け合う」場を設定することによって、お互いに助け合い、高め合いながら運動に意欲的に取り組む子ども。非常時には自分の命を守るための行動を理解し、素早く・整然と行動できる子どもを育てたい。

特別活動において「つなぎ合う」場を設定することによって、自分の命は自分で守り、命を守る知恵をつなぐことができる子ども。基礎的な防災について、単なる知識の獲得に終わらせるのではなく、自分から防災・減災のために実践し、後世代へ語り継ぎ、未来志向の社会をつくろうとする子どもを育てたい。

| 国語科<br>高学年                                                                            | 社会科<br>中学年                                                                        | 体育科<br>低学年・特別支援                                                                               | 特別活動<br>全学年                                                                                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>自分から</b>                                                                           |                                                                                   |                                                                                               |                                                                                                                                       |
| <b>伝え合う</b><br>自分の思いや考えをもち、伝え合うことのできる子ども。<br>・お互いのよさを認め合い、自分の考えを深めたり、高めたりできる子どもを育てたい。 | <b>かかわり合う</b><br>人、もの、こととのかかわりを大切にする子ども。<br>・ふるさとを愛し、ふるさとに育てられたという思いをもてる子どもを育てたい。 | <b>助け合う</b><br>お互いに助け合い、高め合いながら運動に意欲的に取り組む子ども。<br>・非常時に自分の命を守るための行動を理解し、素早く・整然と行動できる子どもを育てたい。 | <b>つなぎ合う</b><br>自分の命は自分で守り、命を守る知恵をつなぐことができる子ども。<br>・基礎的な防災について、単なる知識の獲得に終わらせるのではなく、自分から防災・減災のために実践し、後世代へ語り継ぎ、未来志向の社会をつくろうとする子どもを育てたい。 |
| 自分づくり                                                                                 | 仲間づくり                                                                             | 意欲づくり                                                                                         | 備えづくり                                                                                                                                 |

### 「いわての復興教育」における三つの教育的価値

生命やところに【いきる】 人や地域について【かかわる】 防災や安全に【そなえる】

## 5 研究内容の具体

### (1) 児童一人一人が「自分から」かかわることを取り入れた教科等の指導の在り方

#### ア 教科等の指導に「ふるさとの復興を担う人づくり」の視点を取り入れる意義

「ふるさとの復興を担う『人』」は、「ふるさとを愛する人」で、「心やさしくたくましい人」であり、「主体的に学ぶ人」である。

そして、教科等の指導において、「伝え合う」・「かかわり合う」・「助け合う」・「つながり合う」場面を設定することによって、子どもたちが『自分から』かかわり、考え、判断し、行動できるような授業を実践することとした。

このことは、まさに、今までの学校教育が目指してきた『生きる力』の育成そのものであり、これまでの本校の取組と軸を一にするものであると確認した。

そこで、教科等の指導に「ふるさとの復興を担う『人づくり』」の視点を取り入れることによって、教科内容がさらに充実・深化させることができると判断した。

#### イ 重点3教科及び特別活動における指導と「ふるさとの復興を担う『人づくり』」

##### ① 体育科（低学年）～助け合う～

震災や避難所生活を通し、一番に感じたことは、命を守るために体力が必要だということ。そして、助け合うことが必要だということである。運動は子どもを笑顔にし、心と体を育む大切なものであるということも学んだ。

そこで、知・徳・体を調和的に育むことができる体育科をとoshi成長するために一番のもとになる体力を育てていきたい。更に、神経系の発達が著しい低学年の時期に多くの意味ある運動をすることが運動技能を伸ばし、学習意欲を高めるということから低学年の重点教科とした。

また、道具の準備・片付け、励まし、アドバイスなど、助け合うことで、一人一人が目標を達成していくという経験を積ませ、「主体的に学ぶ子」を育てたい。



##### ② 社会科（中学年）～かかわり合う～

自分の住む地域について知ることは、「ふるさとを愛する心」を育てるもとになるとともに、災害時の応急対応の仕方を考える上でも大切である。また、自分の命を守ることにもつながる。中学年の社会科は、地域を学ぶ学習であり、ふるさとの理解と愛情を育むことにつながることから、中学年の重点教科とした。

授業では、子どもたち一人一人が、ふるさとの「人・もの・こと」についてかか

わり合うことをとおして、自分とのつながりを考えさせ、「ふるさとを愛する子」を育てたい。

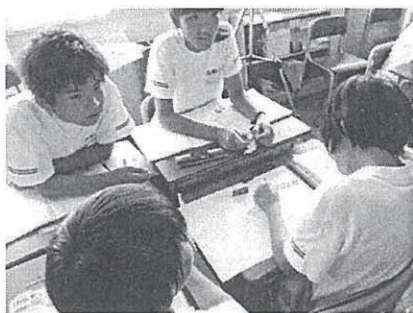


### ③ 国語科（高学年）～伝え合う～

震災時、たくさんの人と人のつながりの重要性を改めて認識した。人と人とのつながりを支えていたのが言葉であり、自分の言葉に、自分の気持ちや考えをのせて伝え合った。

そこで、授業では、自分の考えをもち、伝え合うことによって、子どもたち一人一人のよさに気付くとともに、自分を高めていくことを目指した。

さらに、このような伝え合うことを通して、「心やさしくたくましく生きる子」を育てたい。そして、この姿を小学校で目指す最終的な姿としたい。



### ④ 特別活動（防災教育）（全学年）～つなぎ合う～

防災について、単なる知識だけで終わらせるのではなく、自分自身のものととらえることが必要である。そのためには、様々な状況から適切に自己決定する力を育むこと、実感を伴う学びをとおして、自分から防災のために実践しようとする態度と後世にもつなごうとする態度を育むことが大切であり、継続的に取り組むことが必要である。そこで、特別活動（防災教育）を全学年において、系統的に「人・もの・こと」とつなぎ合うことをとおし「自分の命は自分で守る子」を育てたい。



ウ 2年間の授業実践（単元）について

| 学年   | 重点教科 体育科                                                                                                                   | 特別活動（防災学習）                            |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|
| 1年   | 「ねらっておとそう、みんなでシュート」（ゲーム）<br>「こんな動きできるかな～目指せ合格 忍術試験」<br>（体づくり運動）<br>「にんじゃになろう」（体づくり運動）<br>「ころりんすいっちであそぼう！」<br>（マットを使った運動遊び） | 「じしん」がおこったら<br><br>「学校で『じしん』がおこったら」   |
| 2年   | 「マットでくるりん・パ」（マットを使った運動遊び）<br>「動物ランドへ行こう！」（表現リズム遊び）<br>「かけっこ・リレー遊び」（走・跳の運動遊び）<br>「跳び箱ランドで遊ぼう」（跳び箱を使った運動遊び）                  | 「つなみ」ってなに？<br><br>『ひなんリュック』のなかみは なあに」 |
| 特別支援 | 「スーパーマリオワールド」<br>「宮小 ワールドカップ」                                                                                              | 「宮古大すき」<br>～すごろくをつくろう～                |

| 学年 | 重点教科 社会科                                           | 特別活動（防災学習）                 |
|----|----------------------------------------------------|----------------------------|
| 3年 | 「見直そう わたしたちの買い物」<br>「調べよう 物をつくる仕事」<br>「わたしたちの市の様子」 | 「家庭の備え」<br>「命てんでんこって何？」    |
| 4年 | 「安全なくらしとまちづくり」<br>「昔から今・未来へと続くまちづくり」【開伊街道と復興道路】    | 「こんなときどうする」<br>「君なら どう使う？」 |

| 学年 | 重点教科 国語科                                                                                                                     | 特別活動（防災学習）                                                      |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 5年 | 「伝記を読んで、自分の生き方について考えよう」<br>「椋 鳩十作品を自分なりにとらえて、リーフレットで推薦しよう」<br>「新聞の編集のしかたや記事の書き方に目を向け、新聞のヒミツを探ろう！」<br>「自分の考えをまとめて、グループ討論をしよう」 | 「応急手当のしかた」<br>「どんな情報を信じればいいの？」                                  |
| 6年 | 「解説文を読み、ものの見方を広げ、絵から読み取ったこと、感じたことを解説文で表現しよう。」<br>「町のよさを伝えるパンフレットをつくろう」<br>「先品の世界を深く味わおう」                                     | 「AED の使い方と蘇生法」<br>「防災リュックの中身を考えよう」<br>「その時、君ならどうする？」（クロスロードゲーム） |

## (2) 教育活動全般に位置づけた復興教育、防災教育の実践について

### ア 宮古小復興教育学習プログラムの作成

各学年では、重点教科を中心に、他教科等と関連をもたせ、全教育活動で目指す子ども像に迫るために、いわての復興教育における三つの教育的価値と具体の21項目と関連付けて、「宮古小復興教育学習プログラム」を作成し、実践した。

| 2年 宮古小復興教育学習プログラム                                                                                        |                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                             |                                      |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|--------------------------------------|
| <b>目指す子どもの姿【助け合う～意欲づくり】</b><br>ルールを守り、元気に活動できる子                                                          |                                                              | <b>【1学期のふりかえり】</b><br>・まずは子ども達に「おもしろい」「やってみたい」と思わせるような導入の工夫、雰囲気作りを行い、子どもたちの意欲を高めることができた。<br>・各教科の学習、行事への取り組みを通して、よりよい集団生活のための約束やマナーについて少しずつ意識を高めることができた。<br>・体育科の学習で学習カードを使い、めあてをもたせたりやふり返りをさせたりすることで、目的意識を高めることができた。また、グループ学習を取り入れることで、お互いの良さに気付いたり励まし合ったりすることができるようになってきた。 |                                             |                                      |
| <b>【教科の目標・指導事項】</b><br>・集合整列を素早く行い、リズムにのってはずんで踊ったり、友だちと一緒に踊ったりして遊ぶことができる。<br>・約束を守り、いろいろな水遊びをして遊ぶことができる。 | <b>【復興教育の視点】</b><br>周囲の環境を理解し、状況にあわせながら安全に気を付けて遊んだり、運動したりする。 |                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                             |                                      |
|                                                                                                          | 4月                                                           | 5月                                                                                                                                                                                                                                                                           | 6月                                          | 7月                                   |
| 国語科<br>伝え合う                                                                                              | ふきのとう<br>③【価値ある自分】                                           | かんさつ名人になろう<br>②【自然との共存】                                                                                                                                                                                                                                                      | ともさんはどこかな<br>③【価値ある自分】                      | うれしいことば<br>①【かけがえのない生命】              |
| 生活科<br>かかわり<br>合う                                                                                        | 学校探検<br>⑨【仲間や地域の人々とのつながり】                                    | どきどきわくわくまちたんけん<br>⑬【地域づくり】                                                                                                                                                                                                                                                   | わがやの避難マップ<br>⑭【学校・家庭・地域での日頃の備え】             |                                      |
| 体育科<br>助け合う                                                                                              | 体づくり運動<br>⑥【心の健康】<br>③【価値ある自分】                               | 表現・リズム遊び<br>⑤【やりぬく強さ】<br>走の運動遊び<br>⑤【やりぬく強さ】                                                                                                                                                                                                                                 | マットを使った運動遊び<br>⑦【体の健康】<br>⑨【仲間や地域の人々とのつながり】 | 水遊び<br>⑦【体の健康】<br>21【身を守り生き抜くための技能】  |
| 道徳                                                                                                       | 生命尊重「たんじょう日」<br>①【かけがえのない生命】                                 | 公德心「こうえんの花」<br>⑬【地域づくり】                                                                                                                                                                                                                                                      | 礼儀「いそいでいても」<br>⑤【夢や希望の大切さ】                  |                                      |
| 学級活動                                                                                                     |                                                              | 楽しい運動会<br>⑨【仲間や地域の人々とのつながり】                                                                                                                                                                                                                                                  | 雨の日の遊びを考えよう<br>21【身を守り生き抜くための技能】            |                                      |
| 学校行事                                                                                                     | 交通安全教室<br>21【身を守り、生き抜くための技能】                                 | 運動会<br>⑨【仲間や地域の人々とのつながり】                                                                                                                                                                                                                                                     |                                             |                                      |
| 防災教育<br>つながり<br>学級活動                                                                                     | 登下校中の津浪からの避難<br>⑭【学校・家庭・地域での日頃の備え】                           |                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                             | もうすぐ夏休み<br>21【身を守り生き抜くための技能】         |
| その他                                                                                                      | 避難訓練（火災）<br>⑭【学校・家庭・地域での日頃の備え】                               |                                                                                                                                                                                                                                                                              | 避難訓練（地震・津波）<br>⑭【学校・家庭・地域での日頃の備え】           | 1学期終業式（夏休み中の安全）<br>21【身を守り生き抜くための技能】 |

1学期、2学期はじめに「宮古小復興教育学習プログラム」を作成することで、各教科等のどの単元・活動の中で復興教育の視点を取り入れるのか明らかになり、見通しをもって指導できる。点としての指導から、学びに広がりや深まりをもたせることができる。

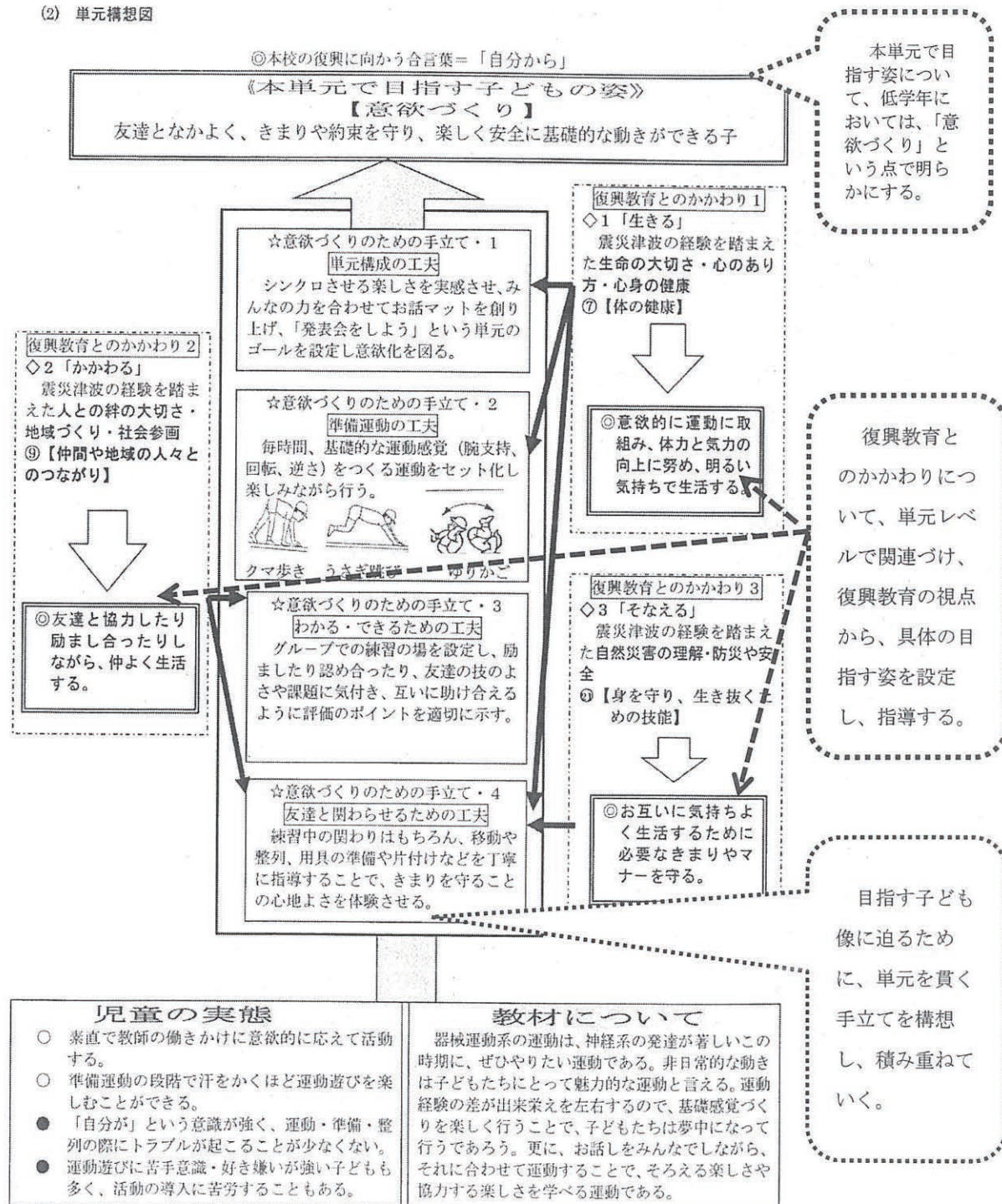
3学期は、全校で行う「命を守る会」をととし、一年間のまとめとして日頃からの防災意識を高めようとしている。

なお、学期末には、「ふりかえり」を行い、次年度に生かすことができるようにしたが、指導途中に評価を入れることで、修正することもできる。

## イ 復興教育の視点を取り入れた単元構想について

宮古小復興教育学習プログラムに基づき、より具体的に実践していくために、重点教科を中心に、単元を構想していく。その際に、単元のゴールを明確にし、目指す子ども像に迫るために、単元を貫く手立てを構築し、実践を積み重ねていく。また、教科の視点だけでなく、復興教育の視点からも、どの教育的価値と関わらせ、どんな具体の姿を目指したいのか目標を設定して実践した。

(2) 単元構想図



### (3) 日常の教育活動における取り組み

#### ア 「人・もの・こと」とのかかわり

『自分から』かかわる」力を身に付けさせるために、授業の他、児童会活動、妹校連携、さらにはPTA行事・学校行事等、教育活動全体に『自分から』かかわる」ことを意識的に設定している。

#### 「人」とのかかわり



盛岡心のかけはしプロジェクト



全校たてわり遊び



募金活動

#### 「もの」とのかかわり



AED講習会



サケの稚魚放流

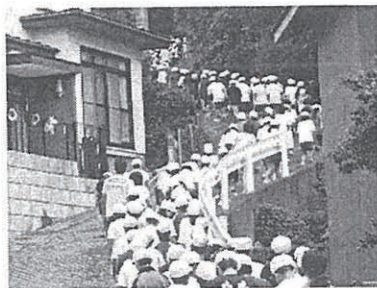


着衣水泳

#### 「こと」とのかかわり



ハザードウォークラリー



高台への避難



命を守る会

## イ 防災意識を高める環境づくり

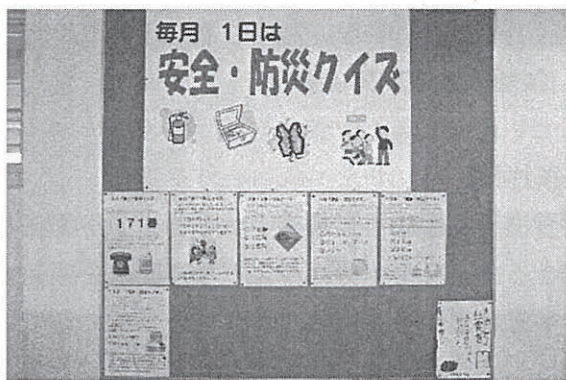
本研究では、「自分の命は自分で守る子」を目指し、特別活動での防災学習を実践している。授業を通して、防災意識を高めることをねらいとして取り組んでいるが、日常的に防災に関係する内容に目にふれさせ、更に防災意識を高めるための環境づくりを推進してきた。



各教室前廊下への防災リュックの設置



図書室での防災コーナーの整備



防災クイズ

- ・毎月1日の安全の日と関連させ、昼の放送で、安全・防災クイズを実施している。
- ・問題については、マルチホールの掲示板に掲示して、常に見られるようにしている。



校舎内の海拔表記



防災学習の掲示

## 6 授業実践

### (1) 体育科 「助け合う」ことをとおし、学びを深める実践例

#### 1年生 「ころりんすいっちであそぼう！」(マットを使った運動遊び)

本授業者の本単元の学習を計画に示す図表は、この指導要領面に記載。

#### ア 授業者の思い

東日本大震災から3年、私たちの住む宮古市でも公私ともに復興に向けた取り組みが進んでいる。震災当時児童は3歳、自宅が全壊・半壊し避難所で過ごした児童もいるが、避難所生活は長くない。児童の多くは、震災の記憶が断片的だったりあいまいだったり、当時のことを辛い体験として明確に覚えていない。また、震災前の宮古の町を覚えている児童も多くない。言わば、「震災を知らない」世代が始まっている。私たちは、震災を伝え、災害時に被害を最小限にする取り組みをしていかななくてはならない。

児童がこれから成長していく過程には、自然震災やそれ以外にもさまざまな困難なことがあるであろう。そうした困難に負けず、これからの社会を担う「人づくり」のためには、健康な心と体を作り、人と関わるのできる生きる力が大切であると考え。

本単元の「ころりんすいっちであそぼう！(マット運動遊び)」で取り上げる運動は、「できた」時の喜びを感じられる運動である。「できた」喜びは次の運動や活動への意欲につながり、喜びを友達と共有することでよりよい集団を作っていけると考える。活動を通して、いろいろなことに自分から意欲的に取り組める子ども、友達と励まし合いながらあきらめずに取り組もうとする子どもを育てていきたい。

#### イ 本単元で目指す子どもの姿

きまりや約束を守り、友達と運動を楽しむことができる子

#### ウ 復興教育のねらい

◎意欲的に運動に取組み、体力と気力の向上に努め、明るい気持ちで生活する。

1【いきる】 ⑦【体の健康】

#### エ 授業の考察

##### ① 助け合う・1～運動量の確保と準備・後片付け～

- ・体育の授業を、学習指導場面、認知学習場面、運動学習場面、マネジメント場面の4つに分け、数量的に捉えることができるが、汗を十分かくような運動量を確保するようにしている。そのために、運動学習場面が授業全体の50%を目標にしている。本実践では次のような結果となった。

| 学習指導場面 | 認知学習場面 | 運動学習場面 | マネジメント場面 |
|--------|--------|--------|----------|
| 22.3%  | 11.6%  | 52.0%  | 14.1%    |

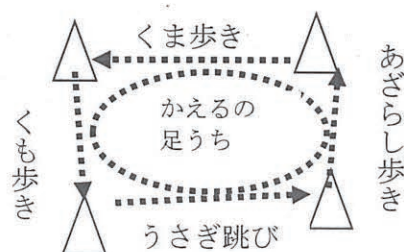
- ・7/8時で、学習の進め方にも慣れているせいもあるが、一つ一つの運動強度も高く、ハアハアと息が上がるくらいの運動量であった。
- ・準備運動として、「宮小エクササイズ」、「じゃんけんすごろく」を行い、主運動につながる基礎的な感覚づくりを意図的に、また、ゲーム化するなどして楽しみながら行うことができた。



宮小エクササイズ



じゃんけんすごろく



じゃんけんすごろくの場合

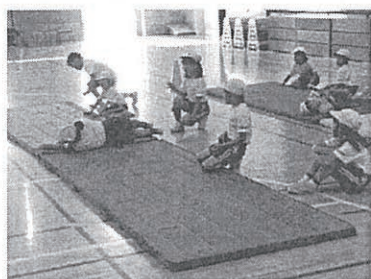
○準備や後片付けも大切な学習と捉え、助け合いながら行うことができた。発達段階に合わせてやり方は工夫しているが、評価しながら行っている。単元が進む中でこの準備・後片付けがスムーズにできることで、運動量の確保にもつながった。



準備や後片付けも自分から

② 助け合う・2～口伴奏に合わせた運動～

- ・動きのポイントを理解し、できるようにするために、動きに合わせて、技のポイントを口伴奏で言わせることで、友達の動きを観察することができた。また、運動のポイントを意識して運動する助けとなった。



ころりんすいっち くちばんそう

ころりんすいっち はじめよう

まえころがり まえころがりは てを まえに  
かわとび かわとびは てでで ささえて よいしょ  
まるたころがり まるたに なって ころころりん ころころりん  
ゆりかご ゆりかご ゆりかご  
みみに てをつけ ゆりかご  
うしろころがり そのまま うしろに ころりんば  
にんじゃころがり にんじゃに なって 1・2・ころりん 1・2・ころりん  
ころりんすいっち ふいっしゅ

③ 助け合う・3～単元構成の工夫（個の運動の集団化）～

- ・グループのみんなで一連のコロリンスイッチのマット運動遊びを完成させるという目的意識をもつことにより、友達と教え合ったり、できた時に喜びあったりして、共に運動する喜びを味わうことができた。更に、発展として、学習発表会で発表することができた。

④ 助け合う・4～応援する言葉かけ・称賛する友好的なかかわり～

- ・授業の中で、お互いに高め合い、友好的なかかわりのために、どんな言葉かけをすればよいのかを、オリエンテーション時に考えさせ、「元気になることば」として常に掲示した。また、本時は、ペア練習時に、お互いに見合って言葉をかける場面を意図的に設定した。よい励ましの言葉などを見つけ紹介した。本単元以外にも拡がり、他の学習時間にも言葉を考えるようになった。

オ 成果と課題

- 「助け合う」ことを意識した指導により、約束を守り、仲間と協力して学習しようという気持ちと態度が高まってきた。
- 場づくりや指導の工夫をしたことで、運動量が十分確保したことが学習意欲の向上につながり、休み時間にも進んで練習する子が多く見られた。
- 基礎感覚づくりを重視することにより、しなやかな動きがみられるようになった。
- ▲低学年体育における「思考・判断」の指導と評価。
- ▲1・2年それぞれの段階的な指導。

## (2) 社会科の実践例（「かかわり合う」ことを通し、学びを深める実践例）

### 4年生 「昔から今・未来へと続くまちづくり【閉伊街道と復興道路】」

#### ア 授業者の思い

私は、震災時、市内の海岸部の磯鶏小学校に勤務していた。地震が起きたのは、校庭での体育の時間。大きな揺れがかなり長い時間続き、校庭は地割れや液状化によって水が湧き出てくるという今までに見たこともない異様な光景となった。そんな突然の状況に泣き出す子も少なくなかった。その後は、子ども達の安全確保、避難所となった体育館の運営に追われ、震災から3日間は、家に帰ることも、テレビから情報も得ることもできなかった。そんな中、磯鶏のまちの様子を見に行った時、愕然とした。流木で倒壊した家屋、瓦礫で埋もれ通行不能となった道路。いつものまちの様子は、そこにはなかった。避難所は、数日間、支援物資も思うように届かず、半ば孤立状態となった。この時、感じたことの1つが「道」の大切さである。普段は当たり前前に歩いている道、車で走行している道であるが、そのありがたさともろさを感じずにはいられなかった。

本単元「昔から今へと続くまちづくり」では、地域の発展に尽くした先人として牧庵鞭牛を取り上げる。鞭牛は、国道106号線の基となる閉伊街道づくりに尽力した地域の先人である。鞭牛は、幾多の工夫・知恵、苦心を重ねて、道づくりを成就させた。そこには「凶作や飢饉に苦しむ地域の人々の命を救いたい」という強い信念があった。学習を進めるにあたっては、様々な資料提示によって、鞭牛の工夫や努力について気付かせ、それらを支えていた強い思いを実感させていく。また、今、当たり前にある「道」にも、先人のそんな工夫・知恵、思いが隠れていることにも気付かせていきたい。単元後半では、現在建設中の復興道路（三陸沿岸道路）を取り上げる。平常時の地域住民の生活の向上、災害時の安全確保、支援物資の迅速な運搬等を目的につくられている復興道路を取り上げることで、今も昔も、そして未来に向けても、地域の人々の命を守るために「道」があることを実感させ、地域社会に対する理解と愛情を育てていきたい。

#### イ 本単元で目指す子どもの姿

過去の鞭牛の閉伊街道作りや現在の復興道路の建設の工夫や目的、思いについて思考・判断し、地域に対する理解と愛情をもてる子

#### ウ 復興教育のねらい

- ・復興道路の特徴や目的を考えることで、地域の人々の命を守るために道があることを実感するとともに、地域に対する理解と愛情をもつ。

#### 2[かかわる] ⑭【復旧復興へのあゆみ】

- ・震災時のR45の被害状況から復興道路の安全性、必要性を考える。

#### 3[そなえる] ⑯【自然災害のライフラインへの影響】

#### エ 授業の考察

##### ① かかわり合う・1～復興道路とR45との比較（「もの」とのかかわり）～

- ・復興道路地図（宮古～田老）を一人一人に配布し、R45と比較しながら復興道路の特徴を読み取らせる活動を通し、その特徴から言える復興道路のよさを解釈・説明することができた。

##### <読み取り>

- ・トンネルが多い。
- ・長いトンネルもある。
- ・カーブが少ない。

##### <解釈>

- ・カーブが少なくなる。
  - ・坂道も少なくなる。
  - ・目的地に速く行ける。
  - ・事故が減る。
  - ・救急車が速く病院に行ける。  
(命を救える可能性が大)
  - ・道に瓦礫が来ない。
  - ・安全。
  - ・物が届く。
  - ・避難場所にもなる。
- ・津波浸水域を通っていない。
  - ・海から離れている。
  - ・西側にある。



② かかわり合う・2～復興道路と閉伊街道（「こと」とのかかわり）～

- ・復興道路は山沿いに建設されていることから、その存在や工事の様子を知る児童はほとんどいなかったが、学習を通し、閉伊街道と関連付け、道が「地域の人々の未来にもつながっている」ことを全体で確かめ合い、地域住民のために道があることを実感させることができた。



- T なぜ、閉伊街道は命の道だったの？  
 C 年貢を届けに行った時などに川の水が増水して亡くなる人がいたけれど、高くて広い道にして命を救ったから  
 C 不作や飢饉で飢え死にする人がたくさんいたから、道をつくって物が届くようにしたから  
 T だから、どちらも地域の人々の命を守る道なんだね。さっき、誰かが言ったけど、復興道路は、未来につながるかな？  
 C つながる。看板にも「つなげよう」って書いてある  
 C 津波はまた来ることもあるから、未来につながる道だと思う。

③ かかわり合う・3～人としての生きる意味を考えさせる（「人」とのかかわり）～

- ・300年前の地域の人々の苦しい生活（度重なる飢饉で餓死者が多数いたにもかかわらず、しっかりとした道がなかったために十分な食料が届かず、生活が自然任せであったこと、南部の殿様への年貢の搬送の際に狭く低い道だったために事故により多くの死者が出たこと）を、何とかしたいという思いから、鞭牛の閉伊街道をつくろうとやり抜く強さ、知恵や工夫について、思考・判断・表現させることを通し、鞭牛の思いや「命の尊さ」や「不撓不屈」、「創意工夫」等の道徳的価値にも触れながら学びを深めていくことができた。

④ かかわり合う・4～実感を伴った理解を図る（「人」とのかかわり）～

- ・閉伊街道の学習後に南川目の岩屋と玄翁館を、復興道路の学習後に復興道路工事現場を実際に訪れ、自分達目でこれまでの学習を確かめる場を設定することにより学びを深めることができた。
- ・単元のまとめとして、学習発表会で劇「命の道・牧庵鞭牛物語」を発表することで「単なる机上の知識ではなく、体感を伴った理解へと高めることができた。」



オ 成果と課題

- 閉伊街道と復興道路の共通点を考えることを通し、道は過去と今を結ぶだけでなく、未来にもつながり、自分たちの生活を守るものだということを考えることができた。
- 自作資料の作成と資料提示の工夫により、児童に驚きを与え、解釈を検証したり、新たな問いをもたせたりすることができた。

▲資料の精選

▲地域活用ネットワークの整理

### (3) 国語科の実践例（「伝え合う」ことをとおし、学びを深める実践例）

#### 5年生「自分の考えをまとめて、グループ討論をしよう」

##### ア 授業者の思い

3年前の大震災。想定外の大津波により、宮古市は大きな被害を受けた。宮古小学校は避難所となり、体育館や教室は津波から逃れてきた人達であふれかえっていた。緊急事態だけに、どの教室にどんな人たちが何人避難しているのかも分からない。届く食料を均等に配りたくても、どのように配ればいいのか暗中模索の状態だった。そんな時、最も大切にしていたのが「話し合う」ことだった。校長や副校長のリーダーシップのもと、職員の中で事あるごとに話し合いが行われた。また、避難している人々も教室単位で班を組織し、班長を決め、班長会議で連絡事項を伝え合ったり、食料を配ったりすることにした。誰も経験したことのない状況だったので、どのやり方が正しいのか分からない中、最善・最良を求めて互いに意見を交わし、一つの方向性を見出していった。お互いの立場や状況、気持ちを考えながら話し合い、行動することで、長期にわたる避難所生活を大きなトラブルもなく円滑に進めることができたのである。

本単元では、自分の考えをもち、一つ的话题についてグループで討論することを単元を貫く言語活動として設定する。「討論」は、高学年になって初めて取り組む言語活動なので、討論の仕方を理解させるためにモデルを示したりロールプレイを取り入れたりすることで、討論のポイントを理解させたい。また、自分の考えを主張するだけでなく、相手の考えを受け止めながら討論する姿勢をどの子にも身に付けさせていきたい。

また、単元のまとめとして、「宮古市役所跡地の活用について」という話題でグループ討論をさせる。8月に、宮古市で市役所移転とその跡地の活用について住民アンケートが実施された。子どもの意見も取り入れてもらいたいという思いから、総合の時間に調べ学習に取り組み、跡地の活用について考えてきた。自分たちの生活に身近な話題を取り上げることで、討論に対する意欲を高め、活用場面を増やすことにより、討論の仕方がより定着すると考えたからである。お互いの考えを関係付けながら、考えを深めたり広げたりすることで、討論することのよさを実感できるようにしていきたい。

##### イ 本単元で目指す子どもの姿

調べたことを基に自分の考えをもち、グループ討論の中で友達の考えを尊重しながら意見を伝え合い、考えを深めることができる子

##### ウ 復興教育のねらい

○討論の中で、自分の考えを受け止めてもらったり、自分の考えがみんなの考えを深めることに気付いたりすることで、自分の考えを大切にしようとする気持ちを育てる。

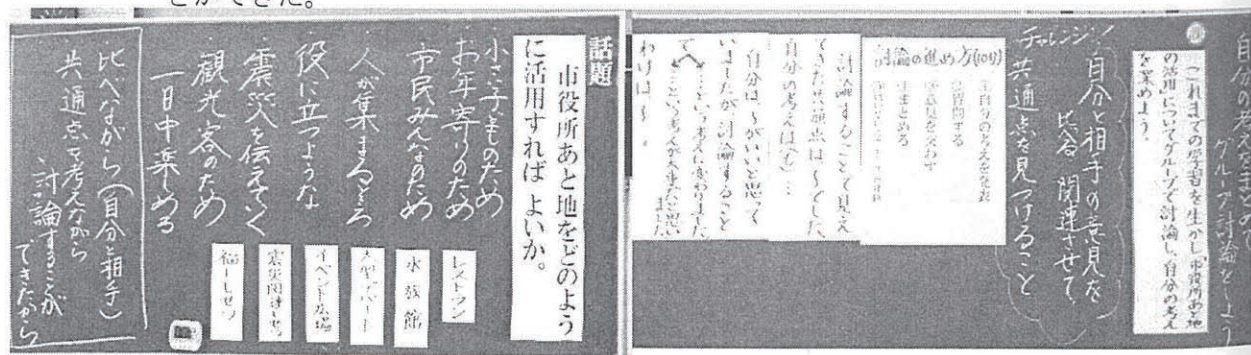
#### 1 「いきる」③【価値ある自分】

##### エ 授業の考察

#### ① 伝え合う・1～討論に対する必要感を高める～

・市役所から出された住民アンケートを基に、「市役所跡地をどのように活用すればよいか」という話題で討論を行った。総合の学習と関連させることにより、討論に対する必要感を高めることができた。

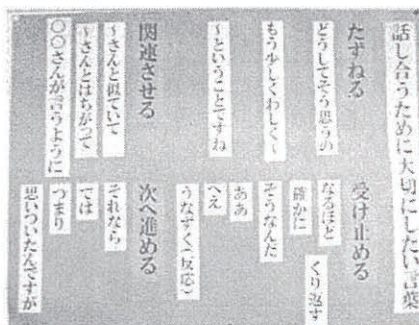
・自分たちの学区にある市役所を話題に取り上げることで、討論への必要感を高めることができた。



【15/15 時の板書】

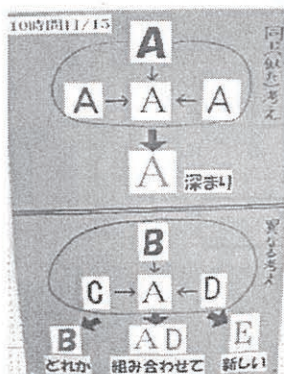
## ② 伝え合う・2～「話し合うために大切な言葉（反応）」～

- ・ 互いの考えを尊重しながら話し合わせるために、「話し合うために大切な言葉(反応)」を提示し、討論の評価の観点ともすることで、互いの考えを受け止めながら話し合わせた。「受け止める」言葉や「関連させる」言葉を意識して討論することで、相手の考えをよく聞こうという態度につながった。



## ③ 伝え合う・3～「共通点と相違点」にポイントをおいた討論～

- ・同じ考えでも根拠が違うということに気付き、相手の話をしっかり聞くことの大切さを理解することができた。
- ・考えを深めるモデルを提示することで、どのような討論をすればいいのかというイメージをもつことができ、考えの深まりを実感させることができた。



### ＜子どものワークシートから＞

- ・わたしは、「人が集まる」と「震災のことを未来に伝えていくこと」を考えていましたが、討論をして〇〇さんと△△さんの意見もわたしと共通していることに気づき、自分の考えに自信がもてました。また、〇〇さんが「市民のために」と話していているほどと思ったので、「市民のために役立つもの」という視点を付け足したいと思いました。
- ・討論する前は「お年寄りのため」だと思っていたけど、〇〇さんは「子どものため」だと話していました。それを聞いて、お年寄りだけでなく「市民のため」という考えが大切だと思うようになりました。
- ・私は、広場や大きな店として活用するという考えだったけど、〇〇さんが「子育て支援ができるもの」と考えていました。その考えも、人の役に立つからいい考えだと思いました。

## ④ 伝え合う・4～討論カードの活用～

- ・ 討論カードがあることにより、話すことが苦手な子も自分の考えを述べることで、全員が共通の土俵に立つことができた。
- ・ 討論の中で、友達の考えに質問したり意見を述べたりする際に、それぞれのカードを見ながら話題に話題からずれずに話すことができた。

## 才 成果と課題

- 単元構成の工夫や、討論を支える手立てにより、友達の考えを尊重しながら意見を伝え合い、考えを深めることができた。
- 朝の会のスピーチやミニ討論会の活動の設定など日常的に伝え合うことを意識した指導が、本実践にもつながった。
- 総合的な学習と関連させ、宮古市跡地の利用についてまとめ、宮古市長に提言することで、討論に対する必要感と成就感をもたせることができた。

### ▲総合と国語の学習の違いを意識した指導

### ▲討論カードの活用の仕方



### 【宮古市長への提言】

#### (4) 特別活動の実践例（「つなぎ合う」ことをとおし、学びを深める実践例）

##### 6年生 「その時、君ならどうする？」

震災当時、本校よりも河口に近い前任校で5年生を担当していた。校庭に避難した児童の背後には、家や建物、車、船等が流されてきた。津波により家が崩れ流される大きな音。車がぶつかり合う金属音。独特の匂い。近隣住民や近くに職場をもつ大人達の怒号と悲鳴。それらが、すでに不安に怯えて泣いている全校児童のそばに近づいてきた。先頭を歩き、より高台を目指して避難させた。児童の方を向いて歩き、励まし、指示を出しながら、決して後ろを向かせないよう必死だった。しかし、聞かせたくない音と大人達の悲鳴は防ぎようがなかった。私自身の眼前には、震え、泣きながら避難する児童とその後ろに広がる破滅的な自然の猛威があった。

当時、本学級の児童は2年生で、帰りの会での被災だった。子どもたちの記憶は、未だに鮮明であり、その後の一変した生活も折に触れ口にする。持ち上がりの担任として、様々な活動を通して関わってきて、明るく誠実な学級だと感じているが、地震やサイレンへの反応を見ると、当時の影響が強く感じられる。また、3年半が過ぎたからこそ、感覚が突然麻痺した状態から本来の恐怖を感じ取られる状態になってきているようにも見える。今後、だんだんと震災時の記憶が薄れていくことも考えられる。しかし、防災意識が薄れてはいけない。定期的に「備える」について子どもたちと確認し、やがて大人になった時に、次の世代に語り、更にその次の世代にもつなげていける教育をするのが、私たちの目指す「人づくり」であると考えている。

本題材の「その時、君ならどうする？」では、「自助」と「共助」という防災の根幹の下、クロスロードゲームという手立てにより、二者択一の判断・決断のしどころで、瞬時に自分と向き合い、命を守るために必要な意思決定を「自分から」行うことになる。更に葛藤調整・相互干渉・自己決定のための決意をもつという話し合い形式で、自己と他者の意見を比較し検討する。ゲーム性を楽しみながらも最適解を求めるのではなく、迫られた判断についてジレンマに悩みながらも真剣に考えること自体が命を守るための日頃の備えのひとつであることに気付かせることで、防災や減災の意識を高めることができるであろう。更に、高学年として主体的に実践しようとする態度を育てていきたい。

##### イ 本単元で目指す子どもの姿

いざという時の判断の重要性に気づき、進んで実践しようとする子

##### ウ 復興教育のねらい

○判断の重要性に気づき、非常時を考えた備えの意識を高める。

3「そなえる」②【学校・家庭・地域での日頃の備え】

##### エ 授業の考察

###### ① つなぎ合う・1～実感を伴わせる～

- ・釜石の軌跡の記事や震災時における大人はどんな様子だったのかというアンケートを活用することで、身近な問題ととらえ、自分自身の生き方に関わる内容として、自分だったらという見識に立って考えることにつなげることができた。
- ・クロスロードゲームの問題文のジレンマを、児童の考えやすい内容にしたことで、自己の経験を生かして、自分のこととして考えることができた。

① 海に近い町での宿泊学習で、ウォークラリーをしている時、大地震発生。周辺には大人がいない。家もない。ゴールに先生はいるはずだが、1km先で、しかも海に近い。雨も降ってきた。ゴールに向かいますか？

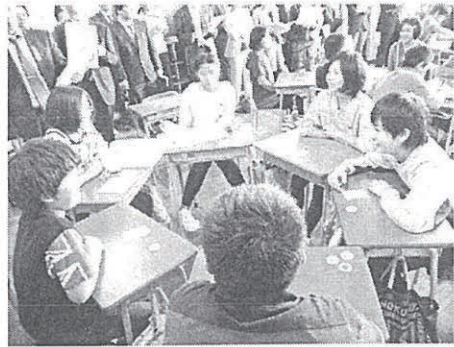
② 大地震発生。急いで避難所に向かわなければならない。家族同然の飼い犬（ゴールデンレトリバー メス3歳）も一緒に避難所に連れて行きますか？

③ 下校途中、大地震が発生。サイレンが鳴りだした。避難場所になっている学校に戻ろうと思ったが、家には、5時間授業で先に帰り留守番をしている妹がいる。大きなダンスや窓ガラスも心配だ。家に戻りますか？

【クロスロードゲームの問題】

## ② つなぎ合う・2～クロスロードゲーム～

- ・クロスロードゲームという手立てが、子ども達の話し合いをスムーズにし、ゲームということから、意欲的な活動ができた。問題の内容はシビアでも、抵抗なく意欲的に取り組むことができ、防災意識を高める手法として、効果的であった。



- ・選択に迷う内容だが、どちらも可能性のあることだから選択の結果に良し悪しがないこと、そこにある根拠を大切にすることで、自分なりの考えをもっていいという安心感をもって、話し合いをすることができた。

### クロスロードゲームの進め方

#### 【グループ】

男女混合5人程度

#### 【進め方】

- ①問題カードを担当が読み上げる。答えは、「YES」か「NO」のどちらかとする。
- ②問題に対する判断を10秒以内で行い、選択したカードを裏返して出す。
- ③10秒後に一齐にカードを表にし、多数派は青カード、単独は金カードをもらう。
- ④金カード→青カード→その他の順で、判断の理由を話す。
- ⑤友だちの意見を否定せず、最後まで聞く。

## ③ つなぎ合う・3～家庭での話し合い～

- ・授業で使用した学習シートを活用し、家庭でも話題にして話し合うことで、防災意識を高めることに繋ぐことができた。

## ④ つなぎ合う・4～復興教育副読本の活用～

- ・東日本大震災後、心のケアとして呼吸法やストレッチを取り入れていた。副読本で扱われていた「ラッタッタ呼吸体操」もそのひとつとして取り入れたことで、リラックス効果や安心して学習できる環境作りをすることができた。
- ・「そのときどうする？」という内容は、クロスロードゲームの発問を考える際の手掛かりとなった。

## オ 成果と課題

- クロスロードゲームを活用し、非常時を想定したジレンマを伴う具体的な状況を設定することで、命を守るために必要な自己決定を「自分から」行うことができた。
- 国語科等の他教科と関連させ、自分の住む町の特色と、東日本大震災とその後の復興の様子をしっかりととらえさせながら、多様な形式の話し合いを経験することで、自分の考えを、根拠をもって伝えることにつなげることができた。
- 日常や道德等での、判断を迫られる場面を意図的に設定し、自信の考えをしっかりともたせ、表現しやすい学級作りをすることができた。
- ▲話し合いの経過や結果をどのように残していくか。
- ▲内容にズレが生じた場合の軌道修正

## 7 成果と課題

わたしたちは、「ふるさとの復興を担う『人づくり』」をめざし、授業実践を行ってきた。校内研究として「復興教育」を推進している学校は他になく、手探りの状態で進めてきたが、この3年の取り組みから、次のような成果と課題が明らかになった。

### (1) 研究の成果

#### ア 児童一人一人が「自分から」かかわることを取り入れた教科等の指導について

「自分から」かかわることを位置付けたことにより、目指す子ども像に迫る授業づくりの視点がより明確になり、主体的に学びを深めようとする子どもの姿が見られるようになってきた。

#### ① 教科等の指導について

##### (ア) 低学年・特別支援体育科について

- ・単元にストーリー性をもたせたり、場づくりを工夫したりすることによって、友達と助け合いながら、意欲的に運動に向かう子どもの姿が見られるようになった。

##### (イ) 中学年社会科について

- ・復興教育の視点から地域の社会的事象を教材化したり、社会的事象に対して自分の考えをもたせたりしたことによって、地域の「人・もの・こと」とかかわりながら地域に対する理解と愛情をもてる子どもの姿が見られるようになった。

##### (ウ) 高学年国語科について

- ・互いの考えの違いやよさを認め合う場を設定し、互いの考えを伝え合いながら、自分の考えや思いを大切に扱ったことによって、思考・判断・表現できる子どもの姿が見られるようになった。

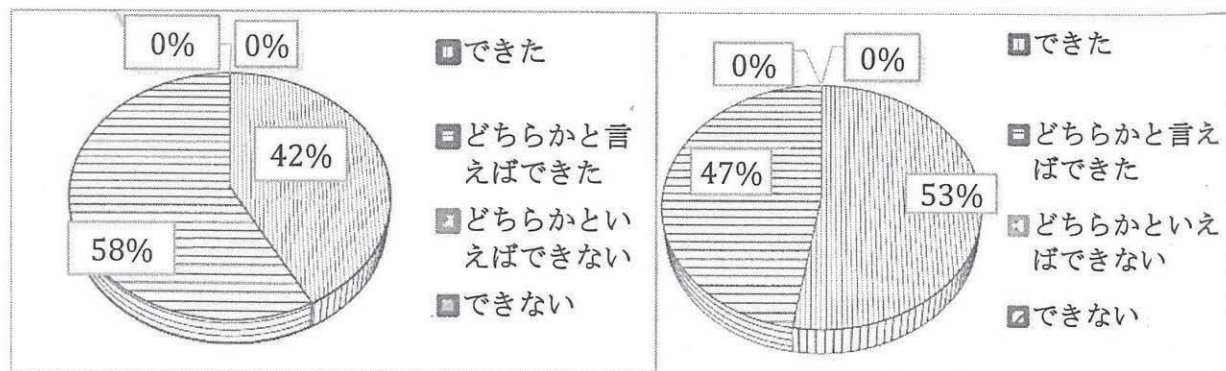
##### (エ) 特別活動について

- ・身近な防災にかかわる事象を教材化したり、自己決定の場を設定したりしてきたことによって、日頃の備えの大切さを実感しながら高い防災意識をもつ子どもの姿がみられるようになった。

#### ② 教師アンケートから

○研究の目標は達成できたか。

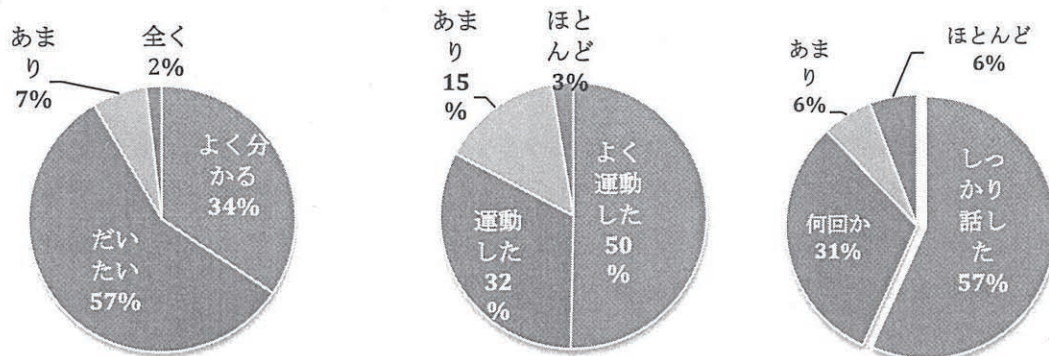
○復興教育の研究を通して児童の力や  
教師の力を高めることはできたか。



教師アンケート結果から、復興教育の実践を通し、目指す児童像に近づいていることを実感として捉えているのがわかる。また、復興教育に取り組むことが、教師力の向上につながると感じている。

### ③児童アンケートから

○学校で勉強したことが分かる。      ○十分遊び・運動しているか。      ○防災についての話し合い



児童アンケートから、学校生活に対して前向きな回答が多いのが分かる。授業を基盤にした復興教育を展開している本校にとって、分かる授業をすることが大前提である。家庭での防災の話し合いについても実践している児童は約9割を占めることから、復興教育の取組の成果と言える。

### イ 全教育活動における復興教育を位置づけた指導について

- ・重点教科を軸に、全教育活動を見通しながら継続的に授業実践を積み重ねることで、関連する教科等と復興教育の視点が結び付き、学びを深めるための構想を明らかにすることができた。
- ・教育活動全体に「自分から」かかわる場を設定したことにより、日常的に、「ふるさとを担う『人づくり』」につながる取り組みができるようになった。

### (2) 研究の課題

- ・学習内容を精選、焦点化し、授業を構想していくこと。
- ・ふるさとの復興を担う『人づくり』を継続的に推進していくために、宮小復興教育学習プログラムを見直し、地域とのかかわりについて再構築していくこと。
- ・復興教育のねらいにそった評価の在り方を追究していくこと。

## 8 おわりに

本研究の本当のゴールは「今」ではない。今、指導していることの成果は、10年先・20年先の未来において、「ふるさとの復興を担う人」として、表れることを目指した『人づくり』である。

それは、子ども達だけではない。我々教師集団も同じである。転勤によって、職員は変わる。3.11を本校で勤務し、避難所運営を携わった職員は少なくなっている。更にこれからは、被災地で3.11を経験していない教員も増えてくるであろう。しかし、職員の構成メンバーは変わろうが、本校の復興教育の魂は変わることなく、脈々と受け継がれていくことを目指している。指導案の冒頭、授業者が3.11を経験しての思いをもとに、授業構想を述べている。それは、沿岸部で直接震災津波を経験しているかどうかは関係ない。思いをもって授業に望んでいる証しを、記録として残していくことが次に生かされると考えるからだ。

いわての復興教育も同じではないだろうか。3.11を被災地で経験したかどうかは関係ない。ふるさとの復興を担う「人づくり」とは、今までの教育で目指してきた「人づくり」そのものである。日々の授業の中で、地道にやっていくことであり、沿岸・内陸関係なく岩手全体でできるものである。

本校の研究は、「教育の原点」に踏み込んだ研究で、まだまだ時間をかけてやっていかなくてはならないものだ。3.11の記憶が時間の経過と共に薄れるようにフェードアウトするのではなく、持続的に繋ぎ合い、深化させることができるように、これからも日々の実践を大切に、積み重ねていきたい。